

臺灣大學生之對日觀感與日語學習傾向 —以非日語主修生為探討對象—

林麗娟

國立嘉義大學 外國語言學系 副教授

摘 要

本論文旨在透過問卷調查，了解當前台灣大學生對日觀感與日語學習傾向之特徵所在，並探討兩者之關聯性與相關影響要因。

台灣和中國大陸或其他國家比較起來，由於在政經、社會文化各層面與日本有相當密切之接觸，因此不但擁有對日語高接受度之社會基盤，學習日語之環境條件也相對具有較多優勢。近年來，隨著日語的推展普及、大學升學率之提高及高等教育之擴展，高等教育階段中，非日語主修之學習人數已逐漸成長，其高度之“學習意願”亦受到相當矚目。

然而，綜觀台灣日語教育之研究，仍以“現況・實態分析”偏多，從重視“學習需求”之角度，探討“語言態度”或“學習傾向”方面之實證研究相當缺乏。例如，日語的學習意願是否受到學習者本身對日本或日本人之看法影響？相關影響要因為何？等問題仍有待進一步探究。

本研究透過對 1600 名非日語主修生進行問卷調查及「SPSS 統計法」之檢證結果發現：第一、對日觀感與日語學習傾向皆呈現正面偏高水準。第二、對日觀感與學習傾向間存在高度相關。第三、各相關影響要因中，以「社會要因」與「學習意識」兩者間之相關程度最高。

關鍵詞：台灣、大學生、對日觀感、日語、學習傾向

台湾における大学生の対日観と日本語学習意識 —非日本語専攻者を中心として—

林麗娟

国立嘉義大学 外国語学科 副教授

要旨

本研究の目的はアンケート調査を通して、台湾における大学生の対日観と日本語学習意識の傾向、及び両者の関連要因と関連状況を明らかにすることである。

台湾は中国や他の国と比較して、日本との経済・文化的繋がりが深く、日本語を受けやすい社会的心理基盤を持っているし、学習環境も比較的恵まれている。近年、大学進学率の急上昇及び高等教育の拡大によって、高等教育段階における非日本語専攻の学習者が多く増えてきて、その学習意欲の向上向きがかなり目立っている。

台湾における日本語教育の研究は、実態分析のほうに傾く一方で、学習者側に関する言語態度や学習意識等をさぐる実証的研究が欠如されている。例えば、日本語に対するイメージや日本語の学習意欲等という“日本語観”の形成は、果たしてどのように日本・日本人に対するイメージによって左右されているのか、等のような関連状況を客観的に把握するのはなかなか難しいのである。

本研究では、1600名の非日本語専攻者を対象としたアンケート調査の実施及び「SPSS」統計法で検証した結果：第一に、対日評価と勉強志向の両方とも高めの水準に傾いている、第二に、対日観と学習意識との間に深い関連性が存在している、第三に、各影響要因の中で、「社会影響要因」と「学習意識」の関連程度が最も高くなっている、等といった特徴が注目される。

キーワード：台湾、大学生、対日観、日本語、学習意識